

特色のある学びに関する取組紹介

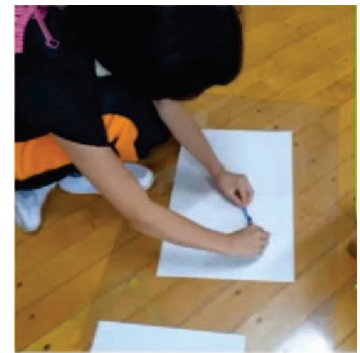
学びの改革支援課

■ 飯田市立上村小学校の取組

～小規模校の特色を生かした「自由進度学習」への取組～

飯田市立上村小学校は、全校児童 19 名の山間小規模校で、少人数ならではのよさを生かし、学び方を選択し自分のペースで学んだり、自分なりの問いを自分なりの方法で学んだりする「自由進度学習」に取り組んでいる。

例えば、3年生算数の円の単元で、ある児童が「どれだけ大きな円を描くことができるだろうか」という問いを立てた。コンパスの開き具合を変えて様々な大きさの円を描き、開く角度と描ける円の大きさの関係について時間をたっぷり使って追究するなど、自由進度学習では、個々の児童の興味関心に合わせて、自分のペースで、学習を進めている。



【様々な大きさの円を描く】

昨年度からは、東京学芸大学の佐野亮子先生のご指導も得ながら、単元の配列の仕方や時間配分、教材の示し方等、少人数での自由進度学習について研究を進めている。

これまでに、1人1台端末で支援動画を視聴できるようにしたり、子どもの思考の流れを意識して学習カードを作成したりすることの有効性が明らかになってきている。

また、学習環境の整備にも力を入れており、子どもたちの興味を促したり思考を助けたりする掲示物を教室等に常時設置しておくなど、いつでも見たり触ったりできるような環境を整えている。

このような学習から、子ども達が自分の力でやり遂げる経験を重ね、自ら学ぶ力を高めていける自由進度学習を目指している。

■ 安曇野市立穂高東中学校の取組

「やらされる」から「取り組む」へ ～生徒の自治力・地域の教育力を活かした教育活動の実現～

安曇野市立穂高東中学校では、生徒や地域の実態を踏まえたカリキュラム・マネジメントを進め、「自律的に生きる東中生」をキーワードに、「生徒主体の授業づくり」、「地域と連携した学校づくり」等に取り組んでいる。

例えば、1年生の社会科では、「あなたは、縄文時代と弥生時代に住むのであればどちらがよいか」との教師の発問から授業が始まり、生徒の議論が活発に行われていた。このように、どの教科でも、生徒の「知りたい、語りたい、聞きたい」を大切にした生徒主体の、議論して進む授業づくりに取り組んでいる。

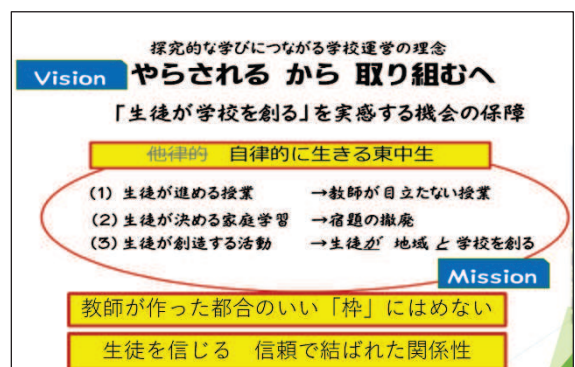
地域との連携では、総合的な学習の時間で、地域を歩き、地域の人と関わりながら、自己のテーマについて追究した結果を、参観日に合わせて地域の人にポスターセッションで発表した。そこでは、地域の人からの質問に答えたり、助言をいただいたりするなど、率直なやり取りが生まれていた。また、コロナ禍で体験的にできていなかった防災学習も、「地域の役に立ちたい」という生徒の意見から、地域と共同して行う防災訓練を区長さんと共に生徒が企画し運営した。

このように、生徒が主体的に取り組む場面を増やすことで、授業のみならず、様々な事柄に当事者意識をもって自律的に取り組めるようになってきており、職員と生徒の関係性も「共に学校を創る一員」という意識が生まれ始めている。

生徒の知りたい・語りたい・聞きたいを保障する



【生徒主体の「議論して進む授業」】



【穂高東中のVisionとMission】